

2024年
10月9日
発行

城東学園小中一貫校 整備検討委員会だより

発行：掛川市教育委員会

土方地区
特別号

城東学園 新たな学校づくりに向けた 土方地区 地域説明会 を開催しました！！

令和6年9月19日(木)午後7時から大東北公民館で「城東学園 新たな学校づくりに向けた土方地区地域説明会」を開催しました。平日の夜間の開催でしたが、16名(内、子ども1名)の地域の方の出席がありました。

◎ 地域説明会では以下の5点について説明をしました。(詳しくはホームページでご確認ください。)

1. 学校再編、小中一貫校とは？

小中一貫校とは？・・・小中一貫教育を行っている学校

- ・ 小学校と中学校が目指すべき子ども像を共有。
- ・ 9年間の連続性(系統性)をもった教育課程の編成と実施。

施設分離型小中一貫校



複数の小学校と1つの中学校が離れた場所にある。

施設隣接型小中一貫校



小学校と中学校の校舎が同一敷地内に併設、または隣接した敷地にある。

施設一体型小中一貫校



小学校と中学校が同一の校舎にある。

いずれの形態でも小中一貫教育を行うことは可能ですが、児童・生徒、教職員が日常的に交流が行いやすい形態とすることが望ましいと考えます。掛川市では老朽化した学校施設の再整備を進める中で、小中学校の一貫校化を進めていきます。

このほか、2. 城東学園小中一貫校整備検討委員会、3. 小中一貫校の建設候補地
4. 公共施設の複合化、5. 開校までのスケジュールと進め方

土方地区のみなさんからのご意見が一番多かったのは、
《建設候補地・跡地利用》のことでした。

建設候補地はコスト削減の観点からも、基本的に既存の学校用地で検討をしています。小中一貫校を整備する場合 30,000㎡程度の用地が必要なため、城東中学校敷地、東京女子医科大学跡地を選定。委員より佐東小学校敷地の推薦がありました。跡地利用は、他課での検討も必要ですが、市民の意見を聞きながらの検討となります。

 **皆さんからのご意見** (一部抜粋) 

Q.小中一貫校によるメリット。学校の面積的な規模はどれくらいを想定しているのか。右肩下がり人口減少しているが、何年度の児童生徒数で学校規模を決めているのか。

A.小中一貫校として統合するメリットは、子どもたちが能動的に学習する現在の多様な学習体系への変化に対応することができる点。現在の単学級の体制では子どもたちが能動的な学習をすることが難しい。
学校の規模は、国の基準で決められており、学級数により規模が変わる。その基準を参考にすると 18~27 学級の規模で 8,000~9,000 m²程度になると考えられる。
児童生徒数については、今年の出生児が令和 12 年度に小学校 1 年生となる。実績値により児童生徒数を想定し学校規模を決めている。将来推計は不確実な部分もあり、実績値を採用している。

Q.現在の中学校の建物はすべて取り壊すのか。あるいはその一部を残して再利用するのか。建設候補地が 3 つあるが、その場所が候補地として上がっている理由、また今後どのように報告、決定していくのか。

A.城東中学校の本校舎は老朽化のため、そのまま使うことは考えていない。新たな校舎を建設する予定。用地に関して新規で土地を取得するのは財政的にも難しいため、計画の中で既存の公共用地の再利用という観点から現在の 3 つの候補地に絞られた。30,000 m²程度の必要なため、城東中学校敷地、東京女子医科大学跡地を選定し、委員より佐東小学校敷地の推薦があった。候補地の選定過程については地区回覧、ホームページにて随時お知らせしていく。

Q.城東中学校の崖地に関する対策について。学校を利用しながらの候補地は仮設費等もかかるため、東京女子医科大学跡地の方が良いのではないかと。また、その周辺施設を移転させながら土地を拡大して、小中一貫校を中心に将来的に公共施設が集積して利用できるように開発していく方が良いのではないかと。

A.崖地については危険という認識であるため、建設する場合は崖地を避ける方向で考えている。東京女子医科大学跡地は斜面地のため、グラウンド等整備の課題がある。公共施設複合化も来客用駐車場の確保も必要なため、大東北運動場の土地確保等も含めて検討していきたいと考えている。

Q.土方・佐東・中地区の範囲が広いため、スクールバスなどの登校手段も考える必要があると思う。また、防災対策として、災害避難拠点として大きな体育館の整備、体育館にエアコンなども必要だと思うが、どのように考えているか。

A.通学支援については国の基準があり、小学生 4 km、中学生 6 km以上がスクールバス・公共交通機関の定期券等支給の対策を市の負担で行う必要がある。また、中学生については 2 km以上から自転車通学を想定している。しかし、現状と比較し、通学距離が増える児童も多いことから 4 kmの基準では負担がかかるため、基準を見直す方向で検討している。防災対策では、先進地の小中一貫校では体育館が 2 つ整備されており防災での活用が期待される。また現在は、普通教室のみエアコンが設置されているが、今後は特別教室にも設置が予想される。

Q.児童生徒数の減少傾向がある中で学校の大きさが余剰になっていく可能性について、どのように考えているか。

A.人口減少についてはその時々状況によっても変わるため、その時点ごとに対策を考えていくことになる。



◎ **たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。**
今後の「城東学園小中一貫校整備検討委員会」で地域住民からのご意見として活用させていただきます。

資料は <検討委員会のホームページ> まで！
下の QR コードからアクセスできます。



<検討委員会のホームページ>

を立ち上げました！QR コードからアクセスできます➡



<専用のご意見フォーム>

にご意見をお寄せください➡



これから検討委員会の状況は、**各戸配布のおたより**、また**市の HP** でも地域にお知らせをしていきます。
今後地域・保護者の皆様への説明会や、児童生徒とのワークショップ等も開催予定のため、是非ご参加ください！

ご意見・ご質問等ございましたら、**掛川市教育委員会 教育政策課 学校再編室**までお問い合わせください。

〒436-8650 掛川市長谷一丁目 1 - 1 TEL : 0537-21-1155 FAX : 0537-21-1222